

津山城を中心に  
どのような  
まちづくりを



緑風会  
森西順次

まちづくり

**問** 津山城を中心にしてどのようなまちづくりをしていこうと考えているのか。

**答** 津山城については現在実施している「津山城跡保存整備事業」を引き継ぎ、平成28年度から第2期事業として第5次総合計画の中の主要事業として前向きに検討中。また、城跡を中心とする景観や出雲街道沿いの町並みを再生していくため、重要伝統的建造物群保存地区における修理修景や今議会会で提案している景観条例・景観計画などにより、さらに津山らしい特色あるまちづくりに取り組んで



津山市城下駐車場方面から見た「津山城跡」

いく。

観光

**問** 入城料をなくして、備中櫓のみ拝観料をもらうようにしては。

**答** 備中櫓だけを有料にした場合、今後進める整備に要する費用に市費の投入が増えないのかなど、慎重な検討が必要である。

堀跡の景観計画に  
おける位置付け



清流の会  
津本憲一

文化

**問** 津山城郭は、明治6年の廃城令により売却され、堀跡は都市機能が集積している現状である。都市が発展するためには、開発する場所、保存する場所を市民とともに考えていくことが大切である。今後、堀跡の位置付けは。

**答** 現在、津山城・堀跡の内側は、城下町の遺構である堀や門、敷地割などの良好な歴史景観を形成しているわけではないため、今回の景観計画では、堀跡のさらに内側に景観形成重点地区を指定する予定である。今後、官民による景観に配慮あるまちづくりが継続され、城跡周辺の景観の魅力がより高まった時点で、堀跡のラインという線引きも含めて重点地区の拡大について検討されることが望ましい景観まちづくりの方向と考える。

◆「その他の質問項目」  
連鎖型再開発について

**答** 国の示している「トップランナー方式」への市の対応は。

津山市の未来像に  
ついて問う



安東伸昭

総合戦略

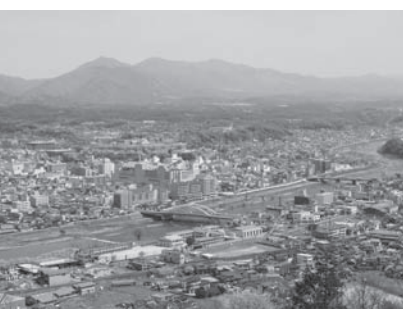
**問** 津山市総合戦略のポイントは。

**答** 最も重要なのは「しごとの創生」であり、地域外からの需要を獲得し、そこで得られた利益を地域内でうまく循環させ、自立した産業構造の構築という考え方を基軸とする。

行革

**問** 第10次行財政改革大綱のポイントは。

**答** 市民と行政が一体感を持って、持続可能な行政経営を目指すことを主眼とする。



は普通交付税の基準財政需要額を算定する行政運営上の標準経費を低コスト団体に合わせ、平成28年度から庁舎管理、一般ごみ収集など9種16業務に導入されると見込まれている。津山市の行革の取り組みは、この16事業に関してトップランナーとされる団体に遅れはとっていないと思っている。